種清作

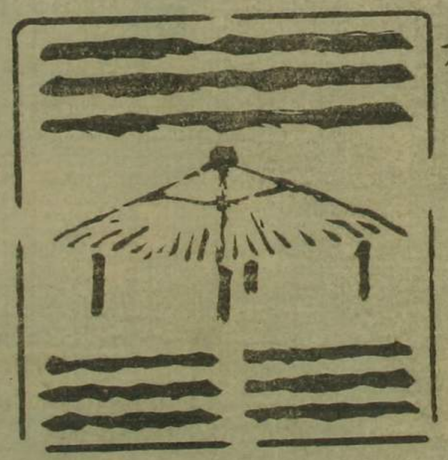
芳幾畫

曲亭馬琴遺稿

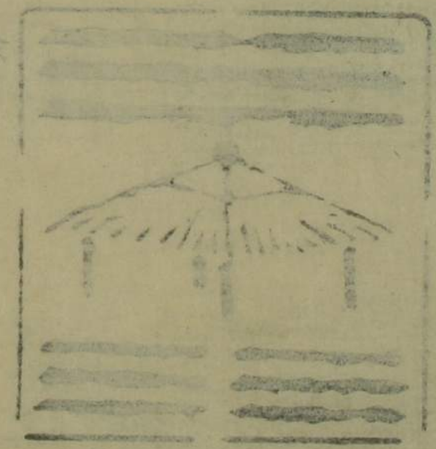
女郎花又子

后臺の編上

甘泉書堂發行之記



特
へ13
3089
7



加藤氏蔵書印
同藏元鑑与
文政十年
由井正雪殺害

女郎花
五色石
臺九編
一惠齋芳幾画
柳水亭種清作
甘泉堂板
下
上

夫色ふくんべ混沌未分の遠古ゆ森羅し忍土の教主ハ空郎孔子ハ世迷悟の表裏を鑑て色ふかくてる賢々論書賢と賢とーて色ふかくてる些ハ得の有りの欲中取換の鉛屋のいろく古鐵質のいろくハ新古を論ぜず蹈着るふみハ文也釘のそれ土藏の壁土のいろくと荒物店のいろくこハ色気ふあく水気もあるべしこれ笠屋相合傘とよ雨気をふきく女に通ふ色愛を色ふ憎ふ毛虫の面のいろくと紺屋の壺のいろくこハ昨日とハいと一翌日とハいの水と戀ゆを雑子寝ふ色ふる枕の紙乃いろくと出雲の神社いろくこハ中ふむもぶふこそ戯語のめ子作者ふ色ふ遂うるまて琴公羽が意の五色石菖ゆの題号の堅を忘れ堅を賢とせきろ」が巻中ふ見せる虎石以て女時宗おそろふ筈合ー大團圓ー頭とまろめぬ

文久二稔
壬戌孟春

柳水亭種清誌

十徳の神宮
左に天の岩戸
右に天の鈴

文部卿

勝
須

雪
月
花
須

芳幾畫
種清作

文久四甲子春新版

女郎花五色石臺
初編から十編迄大尾
柳下亭種員作
惠齋芳幾画

黄金水大盡盃
一五編 一六編
爲永春水作
惠齋芳幾画

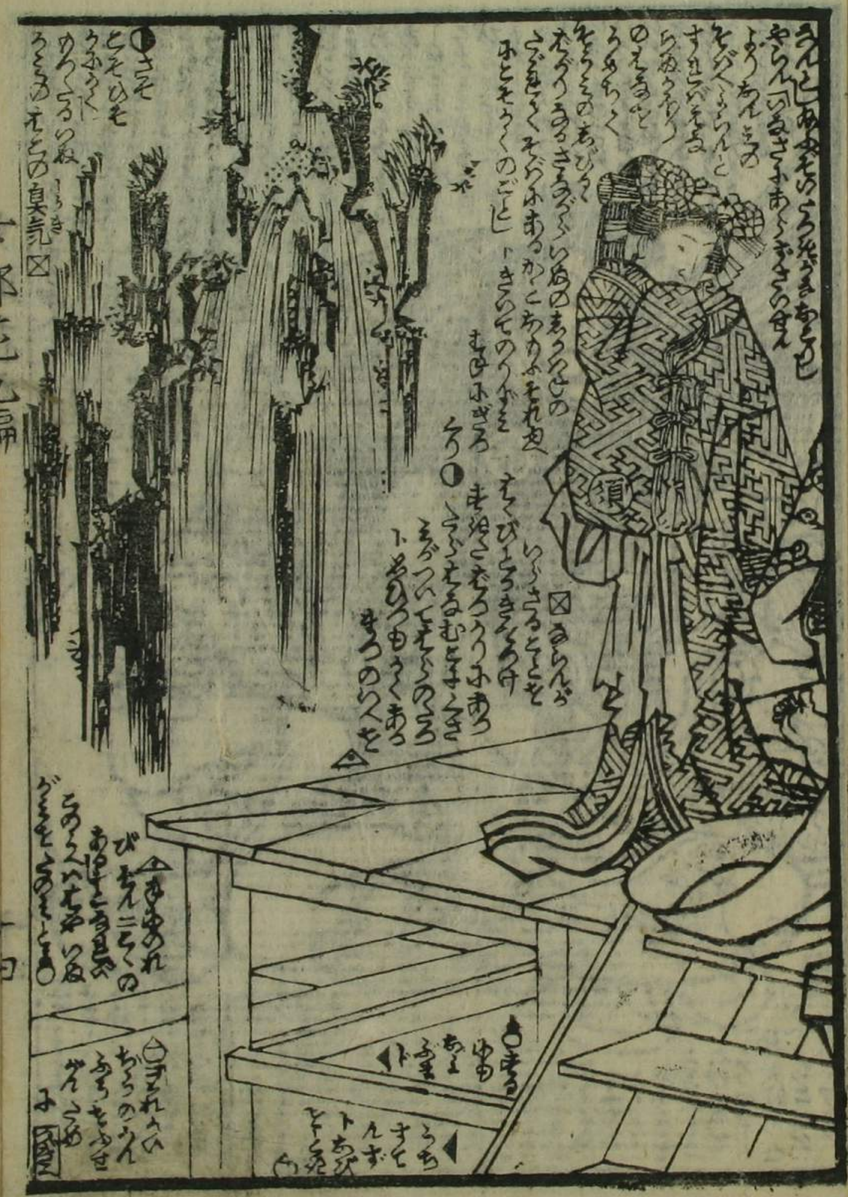
壽齋國貞画
諸國繁栄遊興双六
出生國々は色ざしをもつて
なつめる玉てれル一作
そご六よりは作者の程を考

風俗浅間山嶽
十二編十三編
柳下亭種員作
惠齋芳幾画

貞婦いろは文庫
八編 九編
柳燁亭種久作
同画

假名姓占
休草紙
十五編十六編
同作同画

芝神明前
甘泉堂板



海上安全

柳水亭種清作

恵齋芳幾画

文久四甲子新春刊行

兒雷也豪傑譚 四十編 柳下亭種員作 四十編 恵齋芳幾画

新編金瓶梅 初編より十編迄 曲亭馬琴作 大尾 一陽齋豊國画

蔭戯場猿若眞似 陽齋豊國画 山岡人交來撰 年々出板

出を二芝居一年の狂言を一二三の二冊ずつ出す 往古名代役者の芸をうつし絵にて出す

小女郎蜘蛛怨苧環 初編より 大尾 曲亭馬琴作 勇齋國芳画

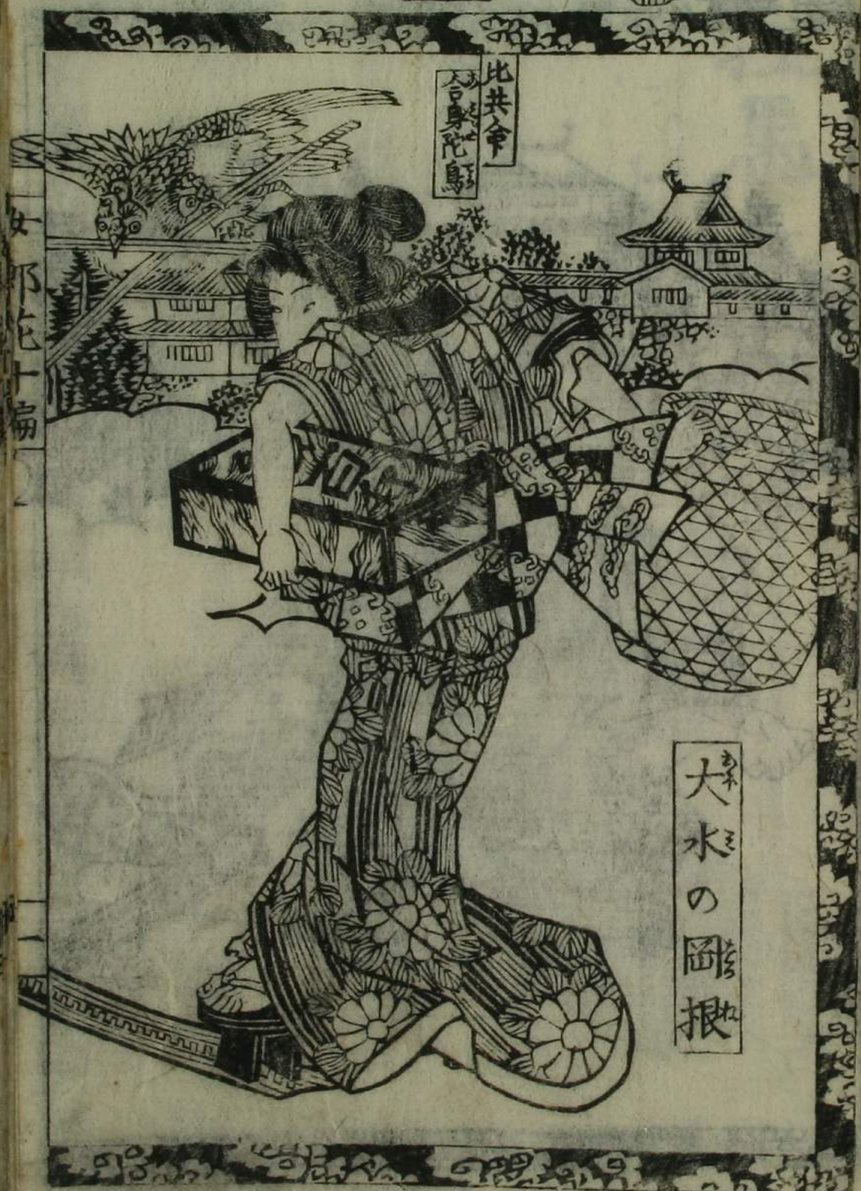
芝神明前 甘泉堂 和泉屋市兵衛版

女郎花五色石臺拾編上

杭 清 芳 甘
種 作 幾 泉
清 画 堂
板

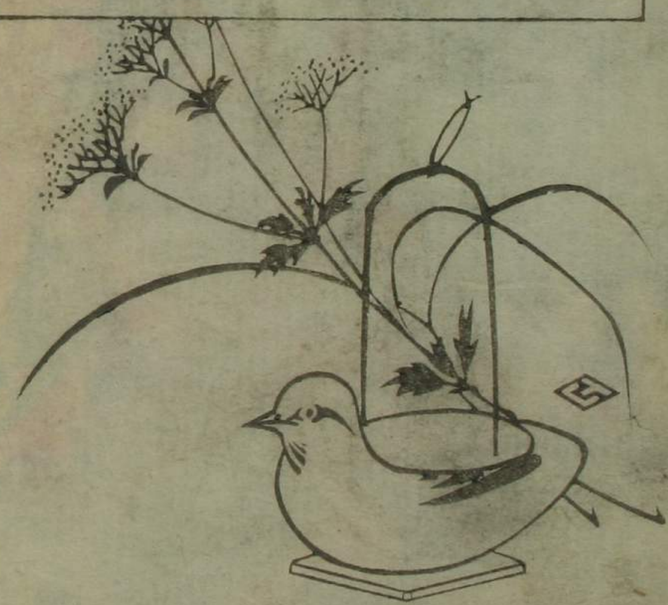
上総国山武郡
成東村
甘泉堂林
茂樹
画作

柳水亭種清作
上
女郎花
五色石
臺
拾編
大尾
恵齋芳幾画
甘泉堂板
下



種彦作
芳藤画

せんさくしてもたれ
ぬ蓋十ぐみのか
ものをさがすら
泉市板



千壽丸
粟津長史惡馬太郎

狂馬止

鬼藝と
ゆせや
いのち
はせ
まつあつ
如有

奴の小萬

元治二乙丑春新版

女郎花五色石臺
初編より十編迄大編
柳下亭種員作
一惠齋芳幾画

黄金水大盃盃
爲永春水作
十六編 十七編
惠齋芳幾画

壽齋國貞画
諸國繁榮遊奥双六

風俗殺間
十三編 十四編
柳下亭種員作
惠齋芳幾画

いろは文庫
八編 九編
柳煙亭種久作
同画

假名反古
休草紙
十五編 十六編
同作同画

芝神明前
甘泉堂梓

三の巻より

これもとくとありまして　あそこらぶ　ふうてい　あるりあり
かくどもそぐ　かりそめのるーまぶ　やしろひ子　とて
きそのとろ　ゆめ　めでてる　まぶ　ぜーるーさる
ゆいわーれども　ちのこも　ろこちとやく
こそそえー　こもじんべ　まこ　ぶ　こえ　こと
ふあひてい　さのこひとろぐと　じもき　たに
わるーそるーえきこんさるるーふされと
ぐるむひまさとのそらとくるれぐあそる
もん七ふるりぐき人やるけうトらふどる

○かるいあるろでくさろのふるふとのく
あるれけふるめんとのむてれさるぐまと
むるりあるーいそるるもとれとるくく
とるちくゆいるどく

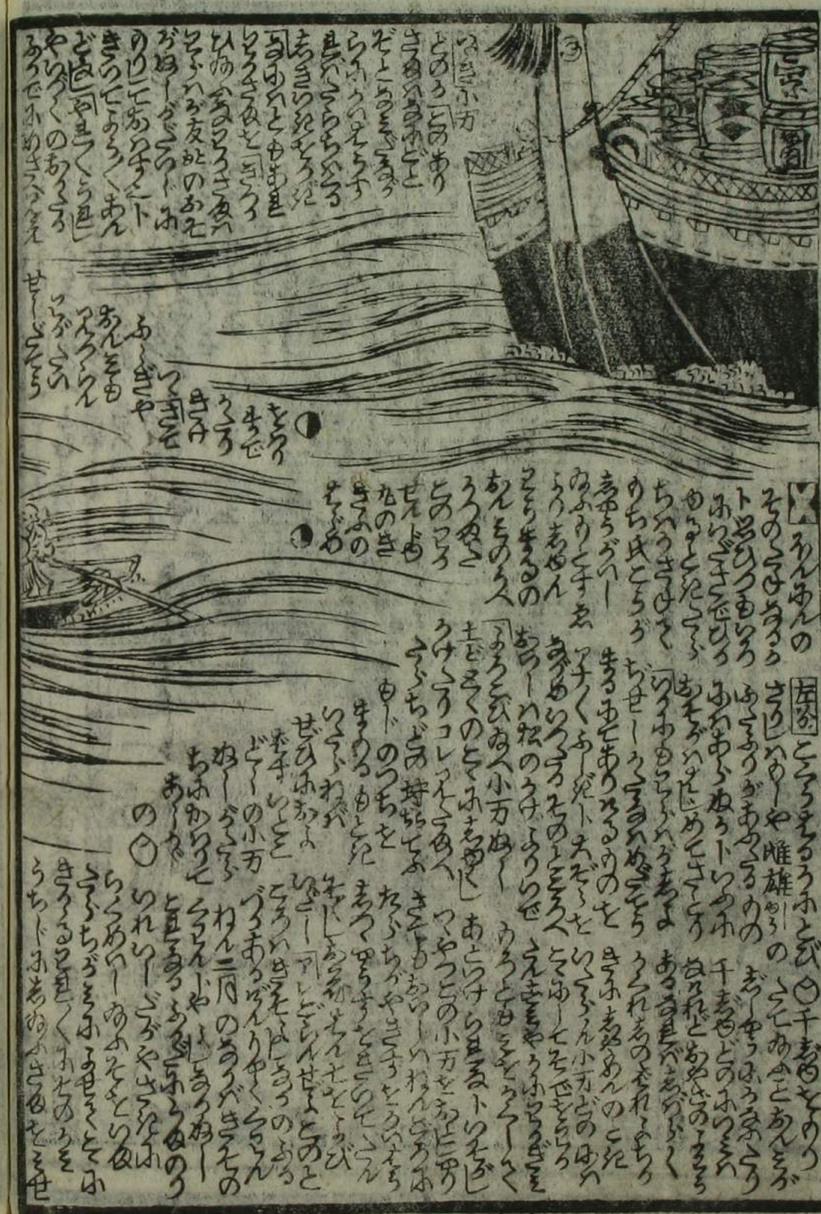
▼りのあけるる　ひとて　のえんるる　○

○ちちあり

小きん
きん七

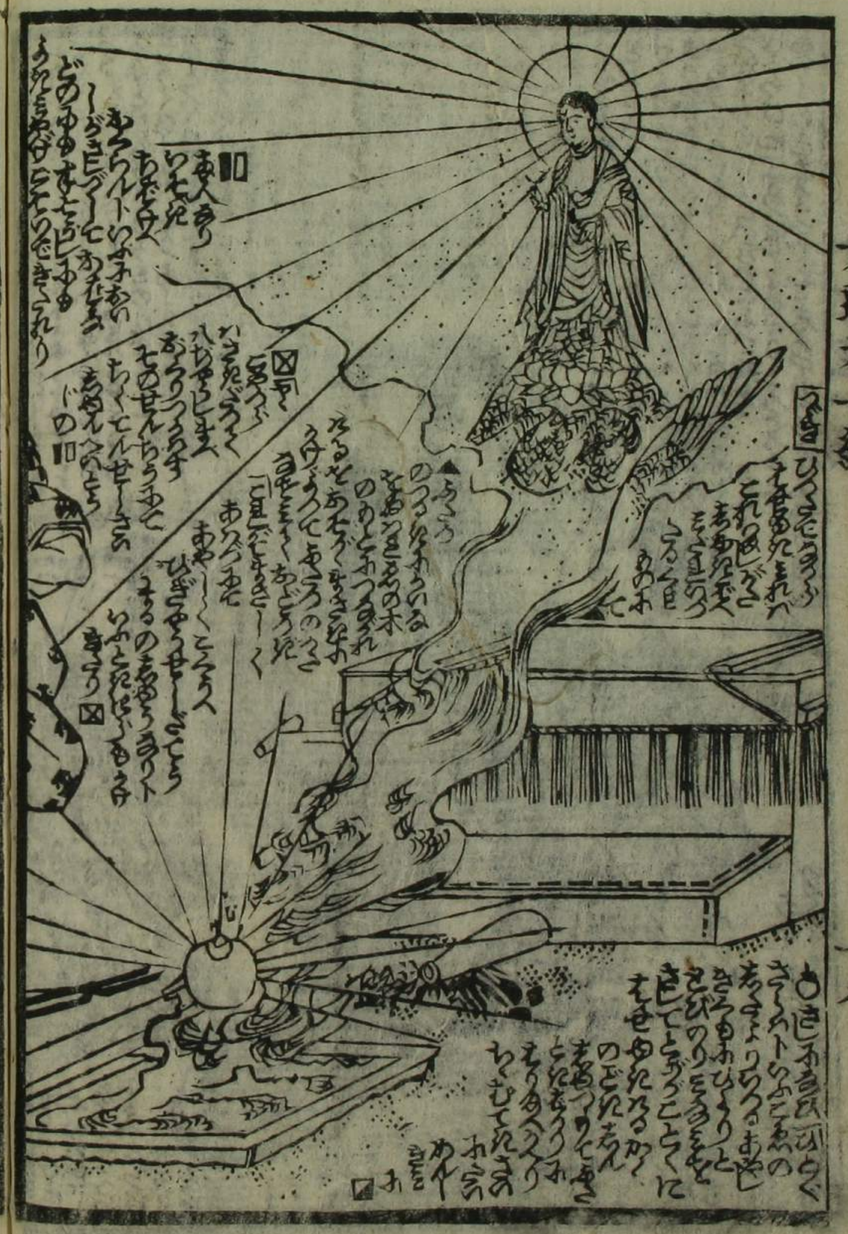
居間
施四海
精醸
桃島家
大江元

酒
酒
海国亭
高



西ゆん
平東次

語五郎朋



元治二乙丑新春刊行

兒雷也豪傑譚 四十一編 柳下亭種員作
四十二編 一惠齋芳幾画

新編金瓶梅 初編十編迄 曲亭馬琴作
大尾 一陽齋豐國画

蔭戯場猿若真似 一陽齋豐國翁画
山閑人 交来撰 年々出板
わかい二巻居一年の初そめ一二と二冊ずつ出板ありさて名代役者のせりふのこゝろをとりこめたるかぶきもとゝのこゝろをとりこめたる一覽の益とす

小女郎蜘蛛怨字環 初編 二篇 大尾
曲亭馬琴作
一雲齋國芳画

芝神明前 甘泉堂 和泉屋市兵衛版

女郎花 拾編
五色石臺

本元 泉市 板